

## 意見交換

### どんな記憶を残したい？

ゲストからのレクチャーのあとは、ワークショップ参加者による「未来のために記録したいこと」をグループにわかれて話しました。その結果を事務局で整理したところ6つの傾向が見えました。

#### 歴史・ルーツ・過去の姿をたどる

昔の家、街の歴史、まちの原型に関する関心  
まちの構造、境界、開発、過去の様子を知りたい人が多い。千里中央をアーカイブするような方向が見えました。

- ・古いまちの家紋を調べたい
- ・上新田の昔の写真を集めたい
- ・意図してつくられたまちの構造調査
- ・団地内の風呂屋跡
- ・吹田と豊中の違いを調べたい など

#### 生活文化・暮らしの記憶

遊び、趣味、世代別の思い出と文化  
年齢ごとに違う千里の記憶と暮らしに着目。世代ごとの文化差の情報が集まる。

- ・今の子どもの遊び方・場所
- ・世代別の思い出の場所
- ・趣味・習い事の傾向
- ・秘密基地の場所
- ・同窓会をする場所 など

#### まちの文化・イベント・楽しみ

グルメ・音楽・イベント・サブカル  
これからどうなるのか？のニーズが非常に強い。

- ・トヨピア → 音楽イベント
- ・ご当地アイドルを再び
- ・ディスコ Party
- ・千里グルメMAP
- ・カテゴリー別グルメ など

#### 風景・自然・まちの生態系

街路樹・自然・花壇などのまちの自然記憶  
“都市の中の自然”に着目。地域特有の自然に関する情報が集まる。

- ・通りの樹木を調べる
- ・古江台のメタセコイア
- ・竜神池などの自然
- ・花壇・植木鉢の手入れ
- ・千里中央の生態系 など

#### 集まる場所・交流・コミュニティ

人がどこで集まり、どう過ごしてきたか  
“交流の場”を生み出す視点。

- ・人がリアルに溜まる場所
- ・いどばた会議の場所
- ・近隣センターは今どうなっている？
- ・まちかど広場は東町だけ？

#### まちの開発・都市計画・将来像を知りたい

構造・開発計画・企業など「未来への関心」  
これからどうなるのか？のニーズが非常に強い。

- ・千里中央開発計画の詳細・進捗を知りたい
- ・千里中央に存在している会社の特徴
- ・ピーコック跡地の開発がどうなるか
- ・更地の状況
- ・モビとよで街めぐり など

## 今後のご案内



### 第1回 12/13 ⑤ まちの記録をとろう

千里のまちを歩きながら、風景・音・料理・祭り・人・遊びなど、次の世代に伝えたい「まちの資源」を探します。

### 第2回 12/21 ⑤ 記憶を次世代につなぐ

1回目で見つけた「まちの記憶」を「次世代につなぐ活動」として考えます。

### 第3回 1/24 ⑤ 記憶をつなぐ取り組みの検討

「次世代につなぐ活動」をさらに具体的にし、参加者のみなさんと一緒に、どのような取り組みが実現できるかを考えます。

### 第4回 2/14 ⑤ 記憶を活用したフェスの検討

みなさんと見つけた「まちの記憶」を多くの人たちに引き継ぐお披露目会「千里ひとつなぎフェス」に向けた準備をします。

### 3/28 ⑤ 千里ひとつなぎフェス

これまでの取り組みの成果を発表し、千里や周辺に住む人たちにまちの記憶を引き継いでいきます。

右記のQRコードから申込みをお願いします

締切 12月11日(木)  
定員 50名程度 参加費 無料



千里中央駅周辺  
まちづくりワークショップ

# これから千里 まちの記憶って なんだろう？

NEWSLETTER 1

## —まちの記憶を見つけるワークショップ—

1962年のまちびらきから始まった千里ニュータウンの歴史。これまで長い年月をかけて、さまざまな人々の暮らしが積み重なり、まちの風景がかたちづくられてきました。そして、ライフスタイルの変化にともない、まちの風景も少しずつ変化しています。まちに根付く魅力とは？未来の暮らしとは？

第1回ワークショップでは、千里のまちを調査し発信し続ける二組のゲストを招いて、調査の手法や大切な考え方を学びました。

- 日時** 2025年11月16日(日) 14:00~16:30
- 会場** 千里文化センター「コラボ」集会場
- 参加者** 24名



主催：豊中市

# 千里ニュータウンの価値と 生きられた歴史を共有する

## ディスカバー千里

千里ニュータウンの歴史と価値を発見し共有するために、調査・研究、思い出などのアーカイブ、情報発信を行なっている。千里をわかりやすく紹介する「大きな本」の展示、絵葉書など千里グッズの販売、ぶらりまち歩きも実施。



## 一人ひとりの小さな歴史が 千里のまちをつくってきた

千里ニュータウンを20年以上調べ続けてきた「ディスカバー千里」の太田さんと鈴木さんから、「千里は暮らしの積み重ねがつくった歴史のあるまち」であることが紹介されました。まちびらきから60年以上が経ち、報告書などの公式の記録は豊富ですが、そこには載らない住民の暮らしの記憶も数多く残っています。例えば、子どもたちが名付けた「アリ地獄・グルグル」。「キリンの車止めまで歩いたら抱っこね」という親子の会話。かつて中央に広場があった囲み型府営住宅の住棟配置。いずれも千里で育った人なら思い出すような小さな歴史です。

## 記憶を見えるかたちにして 人々の記憶を掘り起こす

ディスカバー千里は、2002年に東町の「まちかど広場」で誕生しました。始まりは「良いまちには絵はがきがある」という思いから。その後は、千里中央の年表や大きな本づくり、まち歩きツアー「ぶらり千里」など、千里の記憶を見えるかたちにしてきま



した。展示で絵はがきを並べると「これ知ってる！」と自然に思い出が語られます。語りたくなるきっかけをつくることこそが、記憶を掘り起こす原動力になっています。

## 子どもたちはよくまちを見ている

近年は小学校での地域学習にも協力し、子どもたちが「好きな場所・不思議な場所」を歩いて探しています。出てきた声は、「歩道橋から木がたくさん見える」、「なぜ学校はまちの真ん中にあるのか?」、「車が来ない道で自転車を練習した」、「ミニトンネル(土管)が楽しい」といったもの。50年前の子どもたちとほとんど変わらない同じ視点であることがわかりました。千里のまちのつくり方が、今も暮らしの中に息づいている証です。

## いま必要なのは 記憶を記録する場

講演では「子どもの疑問に、誰が答えるのか?」という問いが投げかけられました。公式資料は豊富でも、暮らしの記憶を見られる場は多くありません。吹田市側には情報館がありますが、豊中市側は不足しています。日々まちをよく見ているのは大人より子どもたち。地域の記憶を残し、誰もが見られる形にしていく必要性が強調されました。千里ニュータウンは、何もない土地に突然できたまちではありません。長い歴史をもつ千里丘陵の上に、戦後のまちづくりの工夫が重なり、さらに住民の暮らしや活動が積み重なって今の姿になったまちです。講演では、この「生きられた歴史」を未来へ受け渡すことの大切さが語られました。専門家だけでなく、まちに暮らす一人ひとりの記憶によって、千里の歴史は支えられています。

# 今しか残せない 千里ニュータウンの物語

## もぐら調査団

千里ニュータウンやその周辺に住む、住んでいた人たちの個人的な思い出を聞き、言葉を集め、今に伝えるすべを探るプロジェクト。様々な世代、色々な得意技をもつ調査員と共に話を聞き、街を歩き、資料を調べて活動している。落語会、展覧会を行う他、「もぐら新聞」の発行もしている。



## 個人の物語を聞き取り記録する

千里ニュータウンの暮らしの記憶を集めている「もぐら調査団」の巽さんからお話を伺いました。公式の記録だけでは分からない、住民の体験や思い出がたくさん残されています。もぐら調査団は、そうした個人の物語を丁寧に聞き取り、記録する活動を続けています。活動のきっかけは、豊中市文化芸術センターからの依頼。調査の中で天竺川をたどると千里ニュータウンに行き着き、「こんなまちがあるのか」と驚いたそうです。千里が吹田市と豊中市にまたがるが、WEB検索をすると「吹田」と表示されることが多い。地域の感覚にも触れ、関心が一気に深まったといいます。「地中を掘るように話を聞く」という意味で名づけられたもぐら調査団。多様な背景を持つメンバーが、2時間以上かけて丁寧な聞き取りを行い、過去の資料と照らし合わせながら記録しています。

## 千里の魅力を届ける地域新聞

集めた話は「千里もぐら新聞」として編集されています。イラストや四コマ漫画、昔の新聞記事などを組み合わせた紙面で、「驚き」「緑」「住まい」などのテーマ別にこれまで7号を発行。全国の千里出身者からも「読んだ」と声が届き、広く共有されつつあります。



## 落語と展覧会で記憶を形にする

聞いた話を別の形で伝える活動も生まれています。  
●きつねばやし(展覧会チーム)  
千里の歴史を体験的に巡る没入型の展示を企画。模型や再現展示、糸電話などを使い、過去の千里を“歩くように感じる”展覧会をつくっています。  
●落語たぬき(落語チーム)  
集めた話をもとに新作落語「千里たぬき」を制作。地域の画家と金屏風をつくり、プロの落語家と共演するなど、千里ならではの表現に広がっています。



## 暮らしの記憶を未来へつなぐ

巽さんは最後に、「話を聞ける世代が元気なうちに“生きられた歴史”を残したい」と語りました。個人の語りは専門家だけでは拾いきれず、その人の暮らしがそのまま映し出されています。今後も、ツアー、居酒屋企画、新しい表現チームなど、多様な活動が広がる予定です。千里のあちこちに眠る小さな物語に耳を澄ませることが、未来のまちを考えるヒントになっていきます。